自分の考えをもち、友達との対話を通して、考えをより深める道徳の授業づくり

三条市立井栗小学校　教諭　山口　桂一

Ⅰ　主題設定の理由

小学校学習指導要領において，道徳科の目標は，「道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲及び態度を育てることである」としている。多面的・多角的に考え，道徳性を高めるには，対話のある学びを通して実践を重ねていくことが重要である。

本学級の子どもは，国語や算数などの授業では意欲的に課題に取り組んだり，自分の意見を自ら進んで発言をしたりすることができるよさがある。その一方で，道徳になると，自分の意見を発表することが苦手という児童や，道徳の授業に対して苦手意識をもつ児童が多かった。また，休み時間になると，相手の気持ちをあまり考えずに行動をしたり発言をしたりしてしまうことがあり，トラブルになることが多いのが現状であった。

日々の授業では，ICT を活用して授業を行うことが多い。自分の考えをオクリンクプラスなどのアプリを活用し，表現させることは，①自分の考えを友達に見てもらうことができる。②友達の考えを参考に自分の言いたいことをまとめることができる。③考えの違う意見があることを当たり前として認識できる。などのよさがある。ノートを書いたり，発表したりすることが苦手な児童も ICT で表現することには，進んで取り組もうとする姿が見られる。

このような実態から，道徳の授業の中で，教材文の中での出来事を自分事として捉えられるようにすることで，自己を見つめることができるようにする。また，ICT を活用することで，発言する意欲をもたせたり，自分以外の児童の意見を知ったりすることで，友達との対話を通して，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深めていけるようにしたい。

Ⅱ　目指す児童の姿

①教材を自分事として捉え，その考えと根拠をもつことができる。（自我関与）
②道徳の授業において，自分の考えをもち，友達と意見交流を行うことで，自分の考えと比べたり，深めたりすることができる。（他者理解）
③授業で学んだことを，これからの実生活に生かしたいと考えることができる。（価値理解）

Ⅲ　授業づくりと ICT 活用

（１）教材を自分事として捉え，考えと根拠をもたせるための手立て

①授業の構造化

授業の流れを①本時の道徳的価値の確認②導入時の発問の工夫③教材の読み取り④自分の考えをもつ⑤対話⑥ふり返りとする。最初に道徳的価値を確認することで，授業後の児童の変容を見取ることができる。構造化された授業は，児童が今なにをすればよいのか、次に何をすればよいのかがわかりやすい。

②考えと根拠をもたせるための工夫

教材を学習する中で，主人公の立場について理解し，自分だったらどうするかを考えさせる。そこで，選択肢を提示し，そこから選ばせることで自分の考えを明確にすることができるようにする。

（2）対話を通して，自分の考えを深めるための手立て

①自分の考えを伝えるための手立てと ICT の活用

ミライシードのオクリンクプラスを活用し，自分の考えを友達に知らせたり，友達の考えを知ったりすることができるようにする。自分の考えを友達に伝えたいという気持ちや，友達の考えを知りたいという気持ちをもつことができるようにする。

②心情メーターの活用

心情メーターに自分のネームプレートを貼らせることで，自分の考えや立場がどこかを視覚的に捉えることができるようにする。また，友達の考えも視覚的にとらえることができるため，対話に対して意欲をもつことができるようにする。

③子ども同士の意見交換の活発化

自分と意見が違う立場の児童と交流させるようにする。自分の考えと相手の考えを比べることで，より考えを深めることができるようにする。

Ⅳ　実践の概要と授業の実際①

教材名　正直、誠実「モンたんとケロきち」（光村図書　きみが いちばん ひかるとき）

1　教材を自分事として捉え，考えと根拠をもたせるための手立て

（1）導入時の発問の工夫

授業の導入時に「正直とは何か」について考えさせた。児童は，「嘘をつかずに本当のことを言うこと」と答えた。その後，正直に言うことは大事だということを抑えたうえで，「正直に言えないときはどんな時か」について考えさせることで，過去の経験を想起させて発表をさせることができた。

（2）考えと根拠をもたせるための工夫

教材を途中まで読み聞かせて，主人公の理子の立場になったら，もし自分ならどうするかについての考えをワークシートに書き，発表させた。その後，心情メーターにネームプレートを貼ることで，自分や友達の立場を視覚的に捉えられるようにしたことで比較しながら，友だちの考えを聞きたいという意欲をもたせることができた。

2　対話を通して，自分の考えを深めるための手立て

（1）心情メーターの活用

心情メーターにネームプレートを貼った後，自分と違う立場の児童と意見交流をする場面を作った。意見交流をして，自分の考えが変わった人はネームプレートを移動させることとして，その後移動させた児童に意見を聞いた。始めは正直に言えない児童も，友達との交流を通して，勇気を出して正直に言わないといけないと考える児童が増えた。

（2）子ども同士の意見交流の活発化

考えが違う児童同士で対話をさせたことにより，違う視点や価値観の違いに気付き，より深く考えさせることができた。考えが変わった児童は，ネームプレートを裏返して移動させ

ることで，個人だけでなく，全体的に意見がどのように変化したのかを視覚的に捉えることができた。



自分と違う考えの児童同士で交流させる。



交流をして，自分の意見が変わったらネームプレートを裏にして移動させる。

Ⅴ　実践の概要と授業の実際②

教材名　相互理解、寛容「学級会での出来事」（光村図書　きみが　いちばん　ひかるとき）

1　教材を自分事として捉え，考えと根拠をもたせるための手立て

（1）導入時の発問の工夫

授業の導入時に，二日前に自分たちで行った「学級会」の写真を見せて考えさせた。その時の様子を尋ねると，「誰かが言った意見で，多数決の票数が変わった」と答えた児童がいた。その後，本教材の動画アニメーションで見せることで話の内容を理解させた。そこで，主人公のさとみさんが自分の意見を言えなかった場面について考え，自分ならどうするかを考えることができた。

（2）考えと根拠をもたせるための工夫

教材を途中まで読み聞かせて，主人公のさとみさんの立場だったら，自分の意見を素直に言えるかについての考えをワークシートに書き，心情メーターにネームプレートを貼らせた。自分や友達の立場を視覚的に捉えられるようにしたことで比較しながら，友だちの考えを聞きたいという意欲をもたせることができた。

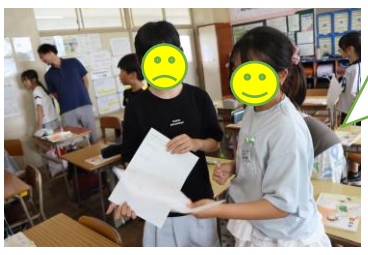
2　対話を通して，多面的・多角的に捉えさせるための手立て

（1）心情メーターの活用

心情メーターにネームプレートを貼った後，自分と違う立場の児童と意見交流をする場面を作った。意見交流をした後に自分の考えを発表させることで，発言に対する抵抗を無くそうと考えた。その後，それぞれの立場で意見を発表し，全体で考えを共有することができた。

（2）子ども同士の意見交流の活発化

考えが違う児童同士で対話をさせたことにより，違う視点や価値観の違いに気付き，より深く考えさせることができた。考えが変わった児童は，その理由を聞き，全体的に意見がどのように変化したのかを視覚的に捉えることができた。



自分の意見と違う立場の友だちと意見交流をする。



オクリンクプラスを活用し、全体で意見交流をする。

Ⅵ　成果と課題

1　成果

（1）授業の構造化と ICT 活用について

授業を構造化によって，児童の思考が途切れずに教材と向き合うことができたと考える。また，ICT を活用することで，自分の考えを伝えたり，友達の考えを知ったりすることができたことが，道徳の授業に対する考え方に変化を与えたのではないか。その結果，積極的に友達との関りをもとうとする児童が増えたことが成果であると考える。

○道徳の授業が好きだ。

３年生の始め（４月）	授業実践①後（１２月）	授業実践②後（４年生の７月）
６５％	８１％	８２％

○自分の意見を発表するのが好きだ。

３年生の始め（４月）	授業実践①後（１２月）	授業実践②後（４年生の７月）
７０％	８２％	７５％

○道徳の教科に対するアンケート

・道徳は、心の授業だと思いました。
・人の気持ちを考えて書くことが難しいと思いました。
・生活の中で実際ある出来事が多いように思いました。
・道徳の授業は、正解がないから好きです。
・優しくすることの大切さなど、たくさんのことを毎回考えることができるので、好きになりました。
・命の大切さがわかるからいいと思いました。
・タブレットで意見を書いたり、友達同士でサインをしたりすることが楽しいです。

○児童のつぶやき

「先生、今週は道徳ないのですか？」
→行事などが続き、実施できない週もありましたが、道徳の授業を楽しみにしてくれる児童が増えてきました。
「○○さんの意見がとてもよかったです」
→自分の考えを伝えるだけでなく、友達のよさを発表できる児童が増えてきました。

（2）自分の考えを深めるための手立て

自分の意見と違う立場の友だちと交流させる活動を通して，自分の意見と相手の意見を比べて考えることができる児童が増えた。ワークシートの記述からも，授業の初めの自分と最後の自分を比べて書くことができる児童が増えた。

＜児童のふり返り＞「モンたんとケロきち」（実践①）

○最初は、「言えないかも」でした。でも，友だちの意見を聞いて，正直に言わないと怒られるかもと思いました。もしこれから先，理子さんと同じような立場になったら，深呼吸をしてからはっきりと言いたいと思いました。
○最初は，「言えない」でした。でも，友だちの意見を聞いて，怒られてもいいから正直に言ったほうがいいと思いました。もしこれから先，理子さんと同じような立場になったら，勇気をもって正直に言いたいと思いました。

＜児童のふり返り＞「学級会での出来事」（実践②）

○最初は、「迷う」でした。話し合いをする場面で大切なことは、勇気をもつことだと思いました。勇気がないと何もチャレンジができないので、これからは、勇気をもって行動したいです。
○最初は、さとみさんの気持ちを考えると、自分も「言えないかも」と思いました。話し合いをする場面で大切なことは、自分の意見を言う前に、相手の気持ちを考えることだと思いました。わけは、何も考えないで自分の意見を言うと、相手が嫌な気持ちになるかもしれないと思うからです。これからも、相手の気持ちを考えていきたいと思いました。

2　課題

（1）児童の考えの変容と行動について

授業での自分の考えや変容の記述はワークシートに書いて積み重ねてきたのだが，その後の様子を見ると，考えと行動が伴っていない児童も多かったように感じた。学んだことを学級に掲示して，普段の学校生活で意識できるようにするとよかったのではないかと感じた。

（2）児童の変容の評価の仕方について

今回の授業だけでなく，その他の授業で取り上げている教材と内容項目についての学習を積み重ねてきたが，学習とその後の行動の変化を見取るのが難しいと感じた。そのため，日々の生活についての自己や他者のアンケートを取って評価をするなどの手立てが必要だったと感じた。

Ⅶ　その後の道徳の授業とこれから

３年生の始めの頃は，自分の考えをもつことができない児童がいたが，今では全ての児童が自分の考えをもって，授業に参加することができている。そのため，ICT を導入にのみ使い，考えを共有したり深めたりする場面では，自分のワークシートを持って意見を伝え合い，生の声で関わることができるような取り組みも入れて授業づくりをしている。（お互いに意見を伝え合ったら，ワークシートにサインをするなど）児童の実態に合わせた授業づくりをこれからも行っていきたいと考える。

参考文献

吉田直樹(2025)　「子どもが変わる！道徳科授業」　光村図書

文部科学省(平成 30 年)　小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　特別の教科　道徳編